



子どもの気になる行動は目につきやすいもの。お子さんを叱ってしまうことが多くなりがちではありませんか？ほめることがよいと分かっている、その場になると難しい・・・
今回は、お子さんの良い行動が増える対応方法について特集します。お子さんと関わる時のヒントになりますように！

【不適切な行動を繰り返すのは・・・】

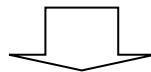
- ☆ **ことばを理解して行動することが難しい**…して良いことと、いけないことを理解するには、時間がかかります。また、普段はことばのやり取りができていても、相手によく注意を向けられなかったり、興味のあることにつられて聞いていなかったりすると、ことばを理解できても行動に移せないことがあります。
- ☆ **相手の表情を理解することが難しい**…大人が怒った顔を見ると、表情の変化を面白いと感じてしまうことがあります。大人は子どもと接するとき、常に表情を変化させています。表情の変化のない真顔はあまり見ることがないため、真顔は注目させるのに効果的な場合があります。
- ☆ **周囲の人の反応が得られる**…子どもは、大人や周囲の人の関心を引きたいものです。大人にほめられることはもちろん、叱られても自分のことを見てくれていると感じ、うれしくなってしまふことがあります。

【不適切な行動が続いてしまう一例】

子どもがイスの上に乗る、立ち上がりやす→家事をしていた母親が怒った顔をして、「あぶないからだめよ」と言い、抱っこしてイスから降ろします。

〈大人側の思い〉子どもを危険から守り、やってはいけないことを知らせた。

〈子どもの理解〉イスに上ったらママがそばに来て、声をかけてくれた。おまけに面白い顔をして、抱っこまでしてくれた！



その結果、その行動（イスの上に立つ）を繰り返してしまうということになります。

【どう対応したらいいの？】

- ① その行動をしようとしたら、事前に止めます。（例：イスに上る場合は、上げようとした足をおさえます。）
- ② 表情を変えずに、真顔で「いけない」「バツ」など、ことばを決めて伝えます。
※ ①のように止め、②のように知らせることで、してはいけないことを理解することが促進されます。
- ③ やめることができたなら、「やらないで まる！」「のらないの えらい」などと言って、笑顔でほめましょう。

【子どもをほめるということ】

子どもにとって保護者や周囲の人にほめられることは、とても嬉しいことです。子どもはやったことをほめられると、嬉しくてその行動を繰り返すようになります。

【ほめるときのポイント】

- ☆ 子どもがこちらに注目したときにほめましょう。
- ☆ 良い行動をしたタイミングを逃さずにほめましょう。
- ☆ 簡単な言葉でほめましょう。
- ☆ 子どもが一番喜ぶほめ方を見つけましょう。（拍手をする・ハイタッチをする・くすぐるなど）

【どんなときにほめる？】

着替えをする場面では・・・

「できたね」とほめようとする、着替えがすべて終わってからの1回しかほめる機会がありませんね。



しかし！！

他にもほめる場面がいろいろあります。

やろうとしているとき→自分でやろうとして「えらい！」

いつも同じようにできるとき→身につけていることが「また できた！」

うまくいなくても頑張っているとき→応援「がんばれ！」も、ほめることになりそう。

手伝ってほしいことを伝えたとき→「つたえられて えらい！」すぐに手伝っちゃう。

これならたくさんほめられますね！！



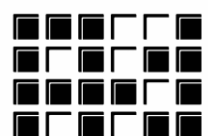
【「ほめる」行動の見つけ方】

大人がほめたいときは、普段できないことが「できた」という特別なときになりがちです。また、普段できていることでも、続けてくれたらいいなあと思うことを見つけてほめていくと、子どもは生き生きと生活でき、メリハリもつくようになります。

「おはよう」と挨拶をする、他の子におもちゃを貸す、ご飯をスプーンで食べる、トイレを教える、座って食事をするなど、何気ない場面でも素敵な行動を見つけて、たくさんほめましょう！！

機関紙『ひよこのみずあび』は
足立区（公式）ホームページ（<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>）
幼児発達支援室ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）
にアクセスすると掲載されています。

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI